

琵琶湖の外輪船「ミシガン」

2022.9.3 事務局長 池田良穂

現在、海文堂出版から「新・船の知識」(仮題)と、講談社のブルーバックスから「船の科学」(仮題)の執筆を行っており、両本の推進に関する説明の章に「外輪」の写真入れたいと思い、いろいろ探してみましたが「外輪」の推進メカニズムが一目で分かる写真が見つかりませんでした。船尾外輪船である琵琶湖の「ミシガン」の写真は結構たくさん撮っているのですが、入港してくる前方からの写真が多く、外輪が回っている後方からの写真が見当たりませんでした。乗船時に船上から撮ったものは見つかったものの、この写真で読者に「外輪」が理解していただけるか不安だった。さらに、現在連載中の大阪港も、ちょうど「船の推進」について書くことになっており、ここでも「ミシガン」の写真が必要でした。

自宅から、ミシガンの発着する琵琶湖の南端の浜大津港まで、車で行けば小一時間の距離。ちょうど晴れ間も覗いていたので、出かけることにしました。

浜大津港の琵琶湖汽船のターミナルには、「琵琶湖汽船 135 周年」の表示があり、待合室の中には琵琶湖汽船の歴代船の写真展示もあり、なかなか興味深いものでした。港には、船尾外輪の「ミシガン」、トリマランの「めぐみ」、かつては宿泊クルーズもしていた「ビアンカ」、滋賀県の小学生の学習船「うみのこ」が停泊していました。



出港する「ミシガン」。船尾で回転する外輪(パドルホイール)がよく分かる写真が撮れた。



「ミシガン」の外輪。外輪に覆いがないので、パドルが水を掻く様子がよく見られました。



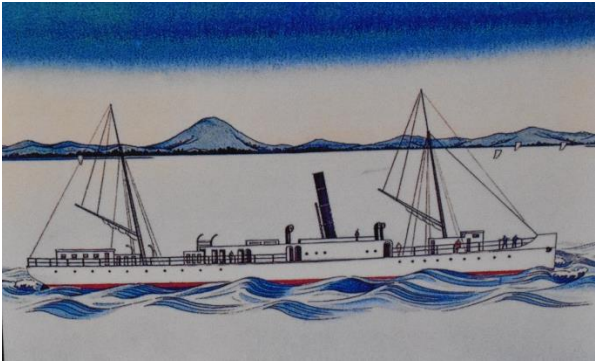
「ビアンカ」と「うみのこ」です。



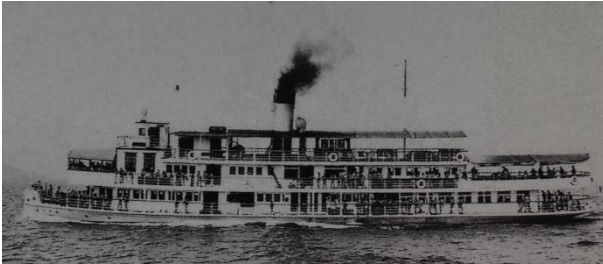
トリマラン船型の「めぐみ」です。中央の船体の一部は、古い船の船体を使い、長さを長くして、サイドハルを両側に取り付けています。トリマランになって、引き波が大幅に減ったそうです。



待合室にあった琵琶湖汽船の歴代船の写真展示です。以下に、展示されていた主な船の写真をご紹介します。



日本初の鉄道連絡船と言われる「太古丸」(想像図)



「みどり丸」(1922年竣工)



「京阪丸」(1928年)



「石山丸」(明治44年～昭和38年)



「白鳥丸」(昭和2年～昭和37年)



「さざなみ丸」(昭和30年～38年)



病院船時代の「京阪丸」



「銀波」(昭和31年～42年)



「金秋」(昭和35年～55年)



「はり丸」(昭和 26 年～56 年)



「弁天丸」(昭和 10 年～平成元年)



「日吉丸」(大正 9 年～昭和 56 年)



水中翼船「とびうお」。135 周年のポスターの中にありました。

